

H

A

N

D

A



第3編 ● 基本計画

第4章

安心・安全で快適な生活 質の高い暮らしを育むまち

基本施策 1

安心・安全な社会 ... 64

- 1 防災・減災 65
- 2 交通安全 65
- 3 生活安全 66
- 4 消防・救急 66

基本施策 2

都市空間 68

- 1 市街地 69
- 2 景観・公園 69
- 3 移動環境 70

基本施策 3

都市基盤 72

- 1 道路 73
- 2 水道 73
- 3 下水道 74
- 4 港湾 74

基本施策

1

安心・安全な社会



施策が目指す半田市の将来の姿

- 大規模災害時の被害を最小限に抑え、災害に強いまちが形成されています。また、市民や地域の防災意識が高まり、逃げ遅れのない避難体制が確立されています。
- 交通安全意識の高まりや安全な歩行空間の整備により、交通事故が減少し、誰もが安心して外出することができるようになっています。
- 地域、警察、学校関係者などが連携し、防犯意識の高まりにより犯罪が発生しにくい環境が整っています。
- 消防施設の強化や適正な指揮体制の確立など、各種災害への対応能力が高まっています。また、市民による応急手当が普及し、救命効果が高まっています。

基本成果指標

単位	計画策定時		現状値	目標値
	年度	基準値	2024（R6）年度	2030（R12）年度
上下水道の幹線管路（雨水管を除く）の耐震化率	%	2019（R1）	68	93 [80] 95
災害に対する「家庭の備え」ができるいると思う市民の割合	%	2020（R2）	39.6	44.0 [65] 90
交通安全の環境が整い、安心して外出できると思う市民の割合	%	2020（R2）	38.3	39.5 [50] 65
地域の治安が良いと思う市民の割合	%	2020（R2）	52.9	48.8 [65] 75
消防・救急体制が整っていると思う市民の割合	%	2020（R2）	67.9	59.6 [70] 75

〔 〕内の数値は計画策定時の2025（令和7）年度目標値

現状と課題

- 大規模な災害の発生が想定されており、被害を軽減するためのライフラインの耐震化・防災拠点等の強化や、様々なリスクを想定した災害対策資機材の整備が必要です。
- 災害への備えとして、地域や家庭での事前対策や自主防災組織の態勢強化が課題です。
- 交通安全意識啓発のほか、警察と連携した交通危険箇所の解消や通学路の安全対策の継続実施が必要です。
- 本市の刑法犯罪の認知件数は増加傾向にあり、自転車盗や自動車関連盗などの被害も多く、防止策が必要です。また、特殊詐欺や悪徳商法、食品の不正表示など、消費者に係るトラブルが多種多様化しており、未然の防止と発生後の迅速で円滑な対応が必要です。
- 地震、風水害、大規模火災など、あらゆる災害に迅速、的確に対応するため、計画的な消防施設の強化、充実が必要です。
- 突然の病気や事故などによる傷病者の命を救うため、救急体制の高度化や救急救命士の育成、隊員の技術向上が求められます。また、救命率向上に向け、市民に対し応急手当の知識や技術を学ぶ機会の提供が必要です。

単位施策・個別施策

1 防災・減災

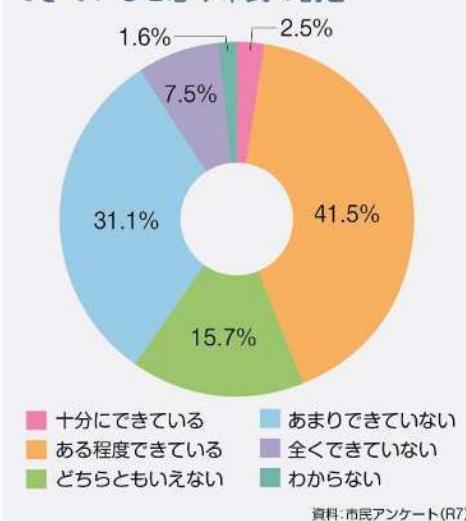
① 災害に強いまちづくりの推進

ライフラインの耐震化や浸水対策など地域の強靭化を進めるとともに、避難所については、様々なリスクに対応し対策を強化します。また、発災時における早期の初動対応、復旧・復興に向か、市民と事業者、行政との連携強化を図ります。

② 地域防災力の向上

大切な命を守るため、「逃げ遅れの無い避難体制」や「家庭の備え」など市民一人ひとりの防災意識を高めるとともに、自主防災組織への活動支援を強化し、地域防災力の向上を図ります。

災害に対する「家庭の備え」ができるていると思う市民の割合



リーディング事業

- 水道施設地震対策事業
- 雨水整備事業
- 災害対策事業

2 交通安全

① 交通安全対策の推進

警察や学校関係者等と連携し、交通事情に適した交通安全施設の維持・改善を図ります。また、子どもから高齢者まで世代に応じた取組を実施するとともに、移動支援策の展開により公共交通の利用を促進し、交通安全環境の向上を図ります。

人身事故の発生件数



リーディング事業

- 通学路安全対策事業
- 高齢者運転免許自主返納促進事業



3 生活安全

① 地域の防犯力の向上

防犯カメラや防犯灯の整備などにより防犯環境の充実を図るとともに、地域における防犯活動を支援して見守りの担い手づくりを進めます。また、巧妙化する特殊詐欺を始め多様化する犯罪に備えて、講座やメール等を通じて最新の防犯情報の周知を図ります。

② 消費生活支援の推進

インターネット取引における詐欺など多岐にわたる消費者トラブルの未然防止や解決支援を行うとともに、適正な計量に係る検査の継続により、消費者保護や生活の安全を図ります。

刑法犯罪の認知件数(市内)



リーディング事業

- 安心・安全なまちづくり事業
- 消費者対策事業

4 消防・救急

① 消防体制の強化

多種多様化する災害に対応できるよう、老朽化した消防庁舎の建替えや車両、装備、消防団の支援を充実させることにより、総合的な消防体制の強化を図ります。

② 救急体制の高度化

救急体制を整備するため、救急救命士の育成と救急業務の高度化を推進します。また、「救命の連鎖」の実現に向け、広く市民に応急手当の普及啓発を推進します。



A-2級ポンプを搭載した大型水槽車

リーディング事業

- 消防・救急活動充実事業
- 救急業務高度化推進事業



- 1 下水道施設やため池、河川など様々な排水施設を組みあわせた総合的な治水対策を実施し、想定を超える豪雨による浸水被害を軽減します。
- 2 防災DXを推進し、新たな情報伝達手段や衛星通信等を導入することで安定的且つ確実な情報の伝達手段を確保します。
- 3 住民が主体となる避難所運営の取組を先進的なモデル事例として、市域全体の自主防災組織の防災活動に取り入れます。
- 4 交通事故の未然防止を図るため、ビッグデータ等を活用した交通安全対策を実施し、年間交通事故ゼロを目指します。
- 5 消防施設の適正な配置を検討し、非常用予備発電装置を備えるなど防災機能を充実し、災害に強い活動拠点を整備・強化します。

関連
個別計画

- 地域防災計画
- 水防計画
- 水道事業施設・配水管整備計画
- 上下水道耐震化計画
- 下水道事業計画
- 国民保護計画
- 國土強靭化地域計画
- 耐震改修促進計画



関連するSDGs



都市空間



施策が目指す半田市の将来の姿

- 名鉄知多半田駅からJR半田駅を中心とする中心市街地は半田市の顔として、一体的に利用され、魅力とにぎわいにあふれています。また、住宅地は便利で快適な暮らしやすいまちが形成されています。
- 歴史・文化が薫る半田らしい景観のまちなみが形成されています。また、公園・緑地は市民に愛着を持って利用され、子どもから高齢者まで誰もが楽しめ、憩い安らげる場となっています。
- 社会情勢の変化に対応した公共交通体系の構築により、市内を円滑に移動できる交通利便性が向上しています。

基本成果指標

単位	計画策定期		現状値	目標値
	年度	基準値	2024 (R6) 年度	2030 (R12) 年度
中心市街地に魅力やにぎわいを感じる市民の割合	%	2020 (R2)	12.1	16.4 [30] 50
便利で暮らしやすいと思う市民の割合	%	2020 (R2)	55.2	55.9 [60] 65
身近な公園が利用しやすいと感じる市民の割合	%	2020 (R2)	45.8	46.6 [55] 65
路線バス等利用者数	人/日	2019 (R1)	1,221	1,010 [1,700] 2,000

[]内の数値は計画策定期の2025（令和7）年度目標値

※2024(R6)年度以降は、路線バス等利用者数に路線バスの代わりに導入する公営タクシー制度などの代替交通手段の利用者数を含む。

現状と課題

- 本市は名鉄河和線とJR武豊線の2つの鉄道路線を有し、南北の交通アクセスに優れている一方で、鉄道による東西分断により、慢性的な渋滞が発生しています。
- 中心市街地の活性化のため、知多半田エリア、半田駅前エリア、半田運河エリアのそれぞれの特性を活かしたまちづくりが求められます。
- 中心市街地周辺では、半田運河の醸造蔵などの歴史・文化資源を活かしたにぎわいの創出が必要です。
- 人口減少社会においては、適切な土地利用の規制や誘導による持続可能な都市の構造が求められます。
- 空き家などの老朽化した建築物が周辺環境に影響を与えないよう、適切な管理や指導が求められます。
- 半田運河周辺地区は、国の都市景観大賞を受賞するなど、良好な景観が形成されています。
- 半田らしい魅力的な景観づくりのため、地域の個性や長所を活かしたまちなみの保全と形成が必要です。
- 市民が利用しやすく、愛着を持てる公園整備が必要です。また、子育て、健康づくり、防災、緑化など、地域の特性を活かした公園の様々な活用が全国的に広がっています。
- 高齢化が進展するなかで公共交通の重要性が高まっており、さらなる交通の利便性向上が求められます。

単位施策・個別施策

1 市街地

① 中心市街地の基盤整備

都市機能の集積や東西交通の円滑化を図るため、JR武豊線の高架化や土地区画整理事業のさらなる推進を図るとともに、名鉄の高架化の検討を進め、快適で質の高い中心市街地を形成します。

② 中心市街地の魅力向上

にぎわいと活気を創出するため、駅周辺での商業施設の充実や魅力的な公共空間の整備を進めることで、人々が回遊したくなるウォーカブルな空間を形成します。また、半田運河などの歴史・文化資源を活かし、エリア全体の魅力向上を図ります。

③ 良好な住環境の形成

快適で持続可能な都市構造を形成するため、適正な土地利用に向けた規制・誘導により、日常生活に必要なサービスや地域住民のつながりを確保します。また、既存建物等の適正管理及び有効活用により、良好な住環境の形成を図ります。



JR半田駅イメージ図

リーディング事業

- JR半田駅前土地区画整理事業
- JR武豊線連続立体交差化事業
- 老朽化建築物取壊促進・空家対策事業
- 知多半田駅前広場改修事業

2 景観・公園

① 景観形成の推進

本市が有する歴史・文化資源を保全し、魅力的な景観を形成するため、市民の景観に対する意識を醸成します。また、住民が主体となり地域特性と調和した良好なまちなみの保全及び形成を図ります。

② 公園・緑地の魅力向上

地域住民が主体的に公園づくりに参加し、地域密着型の公園を整備します。また、市民、事業者、行政が連携し、子どもの遊び場、大人の憩いの場として公園・緑地の魅力を高めるとともに、民間活力を活かした整備を進めます。



半田運河

リーディング事業

- 景観形成推進事業
- 公園整備・改修事業
- Park-PFI事業



3 移動環境

① 公共的な交通手段の利便性向上

路線バスの利用促進や地域との連携・協働のもと、市民の移動手段の確保に取り組むとともに、待合環境整備や情報発信などにより、便利で移動しやすい環境を構築します。また、未来技術の進展などに応じて、新しい移動手段を調査・研究します。

② 鉄道の利用促進と駅周辺環境の整備

中心市街地の整備や関係機関への要望活動により鉄道の利便性を高めます。また、中心市街地における駐車場や各駅駐輪場の環境保全を図り、公共交通機関の利用促進と迷惑駐車の解消に取り組みます。



地区路線バスごんくる

リーディング事業

● 公共交通対策事業



- 1 知多半田エリア、半田駅前エリア、半田運河エリアのそれぞれの特性を活かしながら、中心市街地の活性化を図るため、公と民が連携した組織づくりを促進します。
- 2 空き家マイスターなどの広範な知識を持った専門家と連携し、空き家所有者と買い手や借り手とマッチングを図り、空き家を有効活用します。
- 3 歴史・文化を伝える景観の保全や防災機能の向上等を目的に無電柱化を実施します。
- 4 大規模な都市公園に多くの人が集い、若者や家族が楽しめるよう、民間活力を導入した整備を行います。
- 5 地域毎の移動需要の高まりにあわせて、利用者ニーズに応じた乗合タクシー制度の導入に取り組みます。

関連
個別計画

- 都市計画マスタープラン
- 立地適正化計画
- 緑の基本計画
- ふるさと景観計画
- 耐震改修促進計画
- 空家等対策計画
- 市営住宅長寿命化計画
- 地域公共交通計画
- 中心市街地活性化基本計画



関連するSDGs



都市基盤



施策が目指す半田市の将来の姿

- 交通体系や道路空間が整備され、安全で快適な道路交通環境が形成されています。
- 安心・安全な水道水が安定的に供給されています。
- 下水の適正処理により、衛生的で快適な生活環境が保たれています。
- 海上物流を支える港湾施設の充実が図られるとともに、市民にとって親しまれる環境が形成されています。

基本成果指標

指標名	単位	計画策定期		現状値	目標値
		年度	基準値	2024 (R6) 年度	2030 (R12) 年度
道路が利用しやすいと思う市民の割合	%	2020 (R2)	40.4	40.6 [55]	65
水道経営の安定度(経常収支比率 ^{※1})	%	2019 (R1)	100以上	100以上 [100以上]	100以上
下水道経営の安定度(経費回収率 ^{※2})	%	2019 (R1)	81	93 [100]	100
港に親しみを感じる市民の割合 (半田緑地エリア、亀崎毎兵緑地エリア等)	%	2020 (R2)	28.8	28.5 [40]	50

[]内の数値は計画策定期の2025（令和7）年度目標値

※1 水道事業を運営するために必要な費用が水道料金などの収益によって賄われている割合を表す指標であり、公営企業として100%以上が望ましい。

※2 下水道事業を運営するために必要な費用が下水道使用料で賄われている割合を表す指標であり、100%で収支の均衡が保たれている。

現状と課題

- 幹線道路の交通渋滞や、既成市街地の狭い道路など、道路交通環境の改善が必要です。
- 「マイレポはんだ」などを活用し、道路施設等の管理を効率的に行ってています。また、多くの道路施設等の老朽化に対応し、計画的な更新が必要です。
- 水道施設の経年化にあわせ、適切な維持管理と計画的な更新及び再構築が必要です。また、人口減少や節水器機の普及により、水需要が減少し、料金収入の減少が見込まれるため、社会情勢の変化に適応した経営基盤の強化が必要です。
- 更新期を迎える下水道施設の改築・更新費用の増加や下水道使用量の減少などにより、下水道事業の経営はより厳しくなることが見込まれるため、経営基盤の強化が必要です。
- 重要港湾である衣浦港は、港湾施設の老朽化、機能不足、保管用地不足の解消が求められます。
- 衣浦港が市民から親しまれるための取組が必要です。

単位施策・個別施策

1 道路

① 道路の整備・円滑化

都市計画道路などの幹線道路の整備や渋滞が生じている交差点などの解消について、関係機関と連携し、事業を進めます。また、暮らしに密着した生活道路は、緊急車両の通行や住民の安全性・快適性が確保できるよう、道路の利用形態に応じた道路改良、後退用地の取得などにより、道路交通の円滑化を図ります。

② 道路施設等の適切な改修・管理

予防保全の観点から、計画的に道路施設等を改修します。また、道路パトロールや市民からの情報などをもとに危険箇所を早期に把握・修繕し、道路環境の充実を図ります。



慢性的に渋滞が生じている衣浦大橋

リーディング事業

- 道路改良事業
- 道路維持修繕事業
- 橋梁維持修繕事業

2 水道

① 水道事業の経営基盤強化

民間委託の拡大、他市町との広域連携の推進、適正な水道料金の見直しなどにより事業の効率化を進め、健全な経営基盤の強化を図ります。また、社会情勢の変化に適応した新たな施策の導入など、サービスの向上に取り組みます。

② 水道の安定的な供給

水道施設の経年化に応じて、適切な維持管理と更新及び再構築を計画的に進めます。また、事業者の知識や技術力を活用し、安心・安全な水道水を安定的に供給します。

給水人口と給水量



リーディング事業

- 水道運営基盤強化事業
- 水道安定供給事業

3 下水道

① 下水道事業の経営基盤強化

下水道施設の適正な維持管理や計画的な改築・更新を行い、ライフサイクルコストの低減や事業の平準化に取り組むとともに、適正な使用料金の見直しや民間委託の拡大、他市町との広域連携の推進を行い、経営基盤の強化を図ります。

② 下水道による生活環境の向上

計画的な施設の整備を進めるとともに、下水道への接続を促進し、衛生的で快適な生活環境の実現と公共用水域の水質保全を図ります。



下水道工事の様子

リーディング事業

●汚水整備事業

4 港湾

① 港湾機能の強化と利用促進

新規ふ頭用地の整備や護岸施設、荷役施設など港湾施設の老朽化対策を計画的に進め、公民連携による衣浦港の機能強化及び利用促進を図ります。

② 親しまれる港づくり

市民の憩いの場として、港湾管理者等と連携し、港湾地区の緑地利用の向上を図り、公民連携による水辺の美化活動や衣浦みなとまつりなど親しまれる港づくりを促進します。



衣浦みなとまつり花火大会

リーディング事業

●港湾整備事業

●衣浦みなとまつり事業



- 1 路面検知システム等を用いた情報のAI解析により、効率的な道路管理を行います。
- 2 関係機関と連携し、西三河方面とつなぐ道路の渋滞解消を図ります。
- 3 県浄水場や県広域調整池から市内の各家庭・工場等^{※3}へ直接配水し、効率的な供給を目指します。
- 4 地域の地形・実情に応じた適切な水圧を管理し、漏水リスクや水の出不良を低減することにより、水道水の安定供給を図ります。
- 5 共同汚泥処理について、さらなる広域連携を進め、処理施設の建設費や負担金等のランニングコストの縮減を図ります。
- 6 衣浦港の海面処分用地を工業用地やふ頭用地等に利用するため、港湾関係者と連携を図りながら早期事業化に向け促進します。
- 7 衣浦港の魅力を活かし親しまれる港を創出するため、大型帆船等の寄港を増やします。

※3 地形的に標高が高い場所（増圧区域）を除く。

関連
個別計画

- 橋梁個別施設計画
- 舗裝修繕計画
- 水道事業基本計画
- 水道事業施設・配水管整備計画
- 水道事業経営戦略
- 新水道ビジョン
- 下水道事業計画
- 下水道事業経営戦略



関連するSDGs

